



はしか(麻疹)の お話し



みずの すみえ

秋田厚生医療センター 感染管理認定看護師 水野 住恵 師長

今年の3月末から5月にかけて、沖縄で「麻疹」が流行し、その後、愛知県、神奈川、東京などでも感染者が確認されました。この感染は、台湾から沖縄にやって来た、たった一人の観光客から始まった騒動です。麻疹の感染力がいかに強いかわかります。そこで今回は麻疹のお話しをしたいと思います。

麻疹ってどうやってうつるの？

麻疹の方と同じ空間にいる人で、麻疹にかかった事がない人、またはワクチンを1回しか接種していない人に感染の危険性があります。空気感染(くうきかんせん)といって、小さな粒子が空气中を漂って、比較的遠くの人でも感染します。

麻疹ってどんな症状？

麻疹の人と同じ空間にいた場合、10〜12日の間をあけて、発熱や咳などの症状で発症します。これを潜伏期間(せんぶくきかん)といいます。38℃前後の発熱が2〜4日間続き、体がだるくなり、(小児では不機嫌)、咳、鼻みず、くしゃみなどと、結膜炎症状(結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど)が現れ次第に強くなります。

麻疹ワクチン接種状況の歴史

10年程前まで日本は「麻疹の輸出

国」と汚名を着せられるほど、たくさん感染者がいて、他国に迷惑をかけた国でした。そこで、わが国では麻疹を排除する取り組みをはじめました。現在、日本の麻疹ワクチンは2回接種制度で、1歳と、5歳の時に接種します。2回接種制度が始まったのは2006年からです。

加えて、2007年に10代、20代の麻疹の流行があった事から、2008〜2012年の5年間、中学校1年生と高校1年生に対してワクチンの追加接種を実施しました。この取り組みで、2009年には前の年と比較して93%も報告者数が減りました。ワクチンの効果ってすごいですね。

ワクチン接種の谷間世代

ですが、ワクチンを2回打っているのは2008年に高校3年生だった人(1990年生まれの人)までです。日本の定期接種が開始になったのが1978年だと言われていますので、1972年生まれから1990年生まれの人には1歳から7歳の間に1回接種です。もちろん、任意で受けている方もいらっしゃいますので、母子手帳を探して、ワクチンを接種しているか、この機会に確認してみると良いと

思います。

ワクチン未接種時代

そして、1972年より前に生まれた人はワクチンを1回も接種していない可能性があります。ですが、この年代の人は小さい時に麻疹にかかった人が多いと言われています。そして、かかった事がある人は、かなり強い免疫を獲得していて、麻疹の人と一緒に空間にいても感染する事はありません。

麻疹から自分を守る為には

日本は、麻疹排除を目指しています。2014年フィリピン由来の流行、2016年の関西空港での感染、そして2018年沖縄の流行と決して過去の感染症ではありません。ですがワクチンで効果的に防げる感染症でもあります。今回の様な騒ぎになってしまった後は、ワクチンを手する事が困難になり、簡単に接種する事ができなくなります。平常時に戻った時に、対象になると思われる方は、ワクチンを接種しに行く事をお勧めいたします。

2020年、東京オリンピックはとても楽しみですが、麻疹が海外から運びこまれないとも言え切れません。しっかりと備えておきたいものです。

